

まちづくり交付金 事後評価シート
東海太田川駅周辺地区

平成21年12月

愛知県東海市

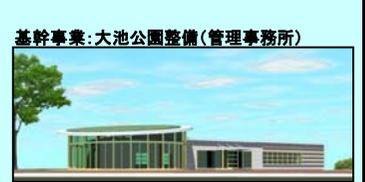
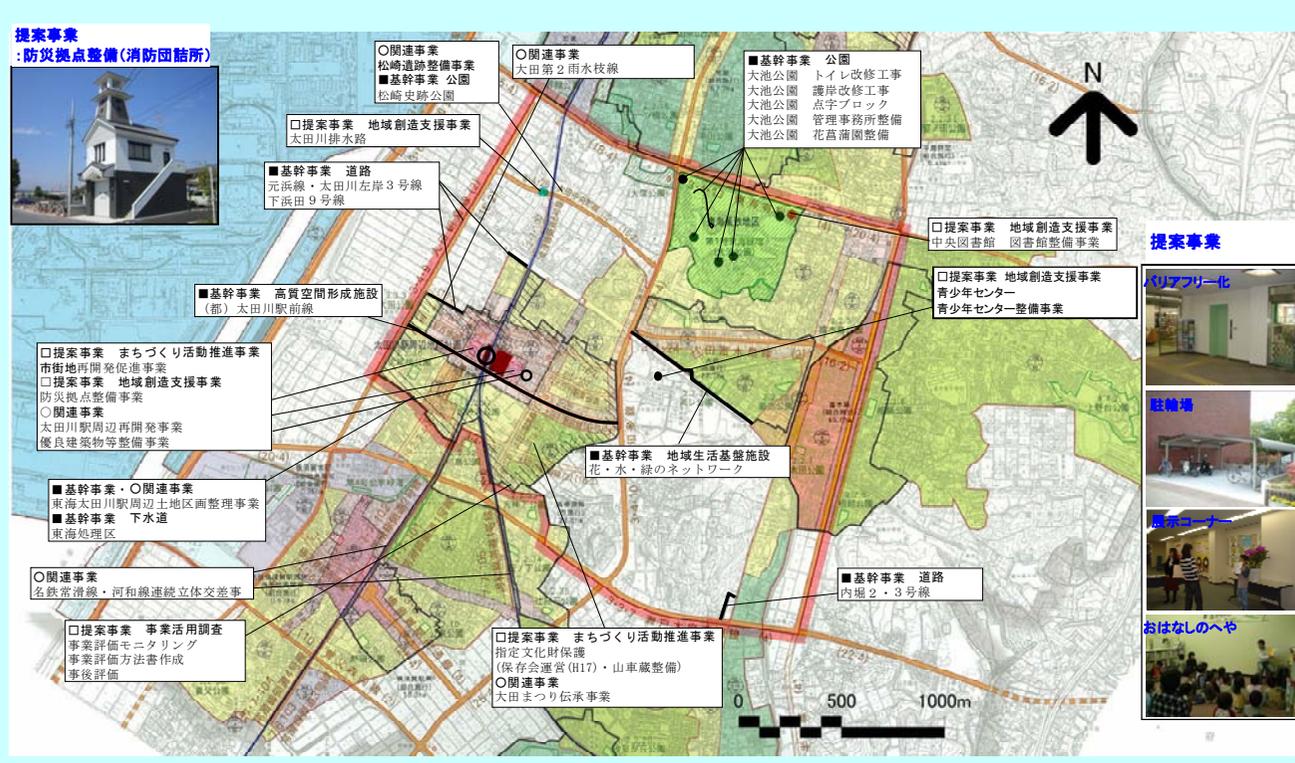
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	東海市		地区名	東海太田川駅周辺地区			面積	400ha			
交付期間	平成17年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	6,269百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		道路(元浜線、大田川左岸3号線、内堀2・3号線)、公園(大池公園)、下水道(東海処理区)、地域生活基盤施設、高質空間形成施設、土地区画整理事業(太田川駅周辺地区)									
			提案事業		地域創造支援事業(図書館整備事業、青少年センター整備事業、排水路整備事業)、まちづくり活動推進事業(市街地再開発促進事業、指定文化財保護)									
	当初計画から削除した事業		基幹事業		公園(大田公園)		整備時期をH22以降としたため		公園事業全体としては大きな変動はない(1事業追加、1事業削除)ため、目標や指標等への影響なし					
			提案事業		地域創造支援事業(公園用地創造事業)		大池公園整備の全体計画を見直し、基幹事業で実施することとしたため		基幹事業において当該事業を実施するため、目標や指標等への影響なし					
	新たに追加した事業		基幹事業		道路(下浜田9号線)公園(松崎史跡公園)		道路:土地区画整理事業の進捗に合わせて整備することとしたため 公園:遺跡公園として整備し、郷土学習の場として活用するため		道路:土地区画整理事業の進捗に合わせて整備を予定していた路線であり、目標や指標等への影響は当初から織り込み済みのため影響なし 公園:公園事業全体としては大きな変動はない(1事業追加、1事業削除)ため、目標や指標等への影響なし					
			提案事業		地域創造支援事業(防災拠点整備事業)事業活用調査(事業評価調査)		防災拠点整備:防災拠点施設の耐震化を図るため追加 事業評価調査:事業の進捗管理と適正な評価を実施するため追加		防災拠点整備:土地区画整理事業の進捗に合わせて整備を予定していた路線であり、目標や指標等への影響は当初から織り込み済みのため影響なし 事業評価調査:事業の実施状況等を評価するものであり、目標には影響しないが、指標の目標達成には一部貢献					
交付期間の変更		当初変更	平成17年～平成21年		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	指標1	駅周辺のバリアフリー化	m	0	H15	1,114	H21	800	900	△	あり なし	●	目標達成には至らなかったものの、都市計画道路の整備により駅周辺のバリアフリー化が進捗し、一定の効果を示したが、建物移転の遅れにより(都)太田川駅前線の整備完了が不可能となった。また、連続立体交差事業の遅れも道路整備の進捗に少なからず影響を与えている。	平成22年7月
	指標2	地区内道路の緑化率	%	40	H15	47	H21	46	54	○	あり なし		土地区画整理事業区域内の都市計画道路整備の進捗により、地区内道路の緑化率が上昇した。	平成22年7月
	指標3	浸水被害面積	ha	4.9	H15	1.4	H21	1.6	1.6	△	あり なし	●	予定どおり事業が進捗せず目標達成には至らなかったが、下水道事業の実施により区域内の浸水被害面積が減少し、安全性が向上した。また、連続立体交差事業の遅れが下水道事業の進捗に少なからず影響を与えている。	平成22年7月
	指標4	建築物の耐震割合	%	21.5	H15	28.0	H21	28.9	37.2	○	あり なし		太田川駅周辺土地区画整理事業における建物移転等により、建築物の耐震割合が大幅に増加した。	平成22年7月
指標5	文化・教育施設の利用者数	人	395,000	H15	410,000	H21	385,299	429,912	○	あり なし		施設改修による利便性向上を受けて利用者数が増加した。	平成22年7月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	その他の数値指標1	大田まちづくりの会の開催回数	回	0	H15	/	/	-	12	/	/	地区計画の運用にあたり、自主的な街並み協定を策定するために住民主体の勉強会等が開催されるなど、地元の熟練・気運が高まった。	平成22年7月	
その他の数値指標2	地区内の歩道設置に関する満足度	%	23.0	H17	/	/	-	25.0	/	/	都市計画道路整備等により歩道整備が進み、安全・安心なまちづくりが推進されるとともに、地区住民の満足度が上昇した。	平成22年7月		
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業や連続立体交差事業等の都市基盤整備が一定量進み、幹線道路や駅前広場(西口は仮設)が整備されるとともに、仮線・仮駅舎が供用開始するなど、高質な都市拠点の創出に向けた素地が整ってきた。 駅東地区については市街地再開発事業により民間開発でのマンション建設が進み、駅西地区についても再開発組合が設立されると、活力ある中心市街地の形成に向け、本地区は着実な歩みを進めている。 													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング		平成19年度にモニタリングを実施。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● ●		モニタリング後も事業の進捗管理を実施し、効果の発現に努める。	
	住民参加プロセス		太田川駅周辺まちづくり検討会議:駅前前で計画されている50m歩道の整備方針・維持管理等に向けて、有識者や住民等による会議を開催した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● ●		検討会議の提言内容を踏まえ、50m歩道の整備を今後第2期計画において実施する。	
	持続的なまちづくり体制の構築		※1 再開発研究会:民間再開発事業の具体化に向けて、地元事業者・権利者等で構成される研究会を開催した。(都市再生整備計画に記載) ※2 地元高校生によるまちづくり活動:東海商業高等学校3年生の「課題研究」の授業を中心街整備事務所で行った。大田まちづくりの会(旧 大田まちづくり研究会):地区計画の運用にあたり、さらに自主的な街並み協定を策定するために住民主体の勉強会が開催され、「太田川駅周辺地区街並みづくり協定」が策定された。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●※1 ●※2		※1 再開発研究会:第2期まちづくり交付金事業へと続く太田川駅周辺地区において、今後も再開発事業の具現化に向け、設立した再開発準備組合の活動を継続的に支援していく。 ※2 地元高校生によるまちづくり活動:今後も継続的に実施するとともに活動規模を広げ、太田川駅周辺地区のにぎわい創出に向けた市民の取り組みを継続していく。大田まちづくりの会:大田まちづくりの会による検討結果を踏まえ、今後本地区の地区計画を適切に運用していく。	

様式2-2 地区の概要

東海太田川駅周辺地区(愛知県東海市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
◎～都市活力の創出を目指して～「にぎわい拠点」となる太田川駅周辺まちづくり ◎～自然環境を生かした都市づくりを目指して～太田川駅周辺を核とした「花・水・緑の基幹軸」の形成 ・交通利便性の高い地区特性を生かし、駅を核に来街者や利用者並びに居住者といった全ての人にやさしく、知多半島・東海市を代表するシンボリックな空間を創出し、質の高い複合的な都市拠点の創出並びに活力ある中心市街地の形成を目指す。 ・防災上問題のある、狭隘な道路に囲まれた密集老朽化住宅及び地盤高から発生する慢性的な浸水状況を土地地区画整理事業により解消し、安心・安全なまちづくりを推進する。 ・都市計画マスタープランに位置づけられた「花・水・緑のネットワーク」構想により、自然環境を生かした潤いのある生活空間造りと教育文化施設の有機的結合を目指す。	駅周辺のバリアフリー化	単位:m	0 H15	1,114 H21	900 H21
	地区内道路の緑化率	単位:%	40 H15	47 H21	54 H21
	浸水被害面積	単位:ha	4.9 H15	1.4 H21	1.6 H21
	建築物の耐震割合	単位:%	21.5 H15	28.0 H21	37.2 H21
	文化・教育施設の利用者数	単位:人	395,000 H15	410,000 H21	429,921 H21
	大田まちづくりの会の開催回数	単位:回	0 H15		12 H21
	地区内の歩道設置に関する満足度	単位:%	23.0 H17		25.0 H21



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・連続立体交差事業の進展により仮線・仮駅舎・仮駅前広場が供用を開始するなど、交通結節点の整備が一定量進んだ。 ・土地地区画整理事業の実施により幹線道路が整備されるなど、新たな地区の骨格が見え始めた。 ・狭隘道路の整備や老朽化住宅の改善、下水道事業の実施等により、都市の安全性が向上した。 ・図書館や青少年センター、大池公園の整備改修等により、地区内の公共施設の魅力が向上した。 ・駅前広場や下水道、公園等一部の基盤整備の未完了が残された課題であり、中心市街地活性化や環境・健康増進に留意したまちづくりが新たな課題として発生している。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・連続立体交差事業との連携をとりながら、第1期計画で残された整備事業など引き続き都市基盤整備を推進し、早期の概成を図る。 ・都市基盤整備とあわせて中心市街地へのアクセスを向上させるとともに、安全・安心な都市機能の集積を図る。 ・市民が関心を寄せている「健康増進」等に留意したまちづくりを進めるため、「花・水・緑の基幹軸」の形成や市民の健康増進に資する施設整備を進める。 ・現在市が策定を進めている「先導的都市環境形成計画」にも留意し、地球環境に配慮したまちづくりに取り組む。 ・中心市街地ににぎわい創出に向けた下地づくりのため、民間主導の開発や各種ソフト事業など、現在策定を進めている「中心市街地活性化基本計画」とも連動して各種施策を推進する。